

登録有形文化財『樟徳館』の魅力をご堪能ください。



樟徳館は、材木商の傍ら大正4年に森平汽船会社を興し、さらに大正6年には樟蔭高等女学校（現・学校法人樟蔭学園）を設立した森 平蔵が私邸として昭和初期に建築したものです。



この場所は、元々は帝国キネマ映画の長瀬撮影所があった場所ですが、昭和5年に焼失した後、森 平蔵がその跡地を入手しました。

建物の外観は全て和風となっていますが、内部には和洋折衷の意匠が混在している点に特色がみられます。

またその建築にあたっては、全国各地から銘木が蒐集され、隣地には原木から製材するための専用の製材所が設けられました。木造二階建の主屋は関西で最高といわれる松普請、仏間や納戸は杉や檜の銘木で普請されるなど、大阪有数の木材業者であった森 平蔵の木に対するこだわりがひしひしと伝わって参ります。



建設のために日本全国から集められた銘木



樟蔭館建築のために作られた専用の製材所での作業風景

昭和7年頃からの構想の時期を入れると、昭和14年の完成まで実に7年の歳月を費やした建物で、和洋折衷・大正モダンの香り漂う住居です。

この建物は森平蔵が昭和35年に享年85歳で亡くなった後、遺志により樟蔭学園に寄贈され「樟徳館」と命名されました。

平成12年には、「造形の規範となり、再現が容易でないもの」として、主屋・土蔵・鎮守社・門・東塀・南塀の6点が国の登録有形文化財に登録されています。



洋風居間
居間は見事な和洋折衷のデザインで構成され、床には寄木で精密な模様が施されている



アールデコ調の照明が輝き、モダンな雰囲気
が漂う食堂



内部和室



応接室の天井には、巨大な楠の一枚板が使われています

樟蔭百年

樟蔭学園は創立100周年

100th
Anniversary in 2017

樟蔭学園の沿革

大正 6年(1917)	樟蔭高等女学校設立認可
大正 7年(1918)	樟蔭高等女学校を開校
大正15年(1926)	樟蔭女子専門学校を設置
昭和 2年(1927)	創立10周年を記念して記念館を建築
昭和22年(1947)	学制改革により樟蔭中学校を設置
昭和23年(1948)	学制改革により樟蔭高等学校を設置
昭和24年(1949)	大阪樟蔭女子大学および学芸学部を設置
昭和26年(1951)	大阪樟蔭女子大学附属幼稚園を設置
昭和62年(1987)	樟蔭女子短期大学(関屋キャンパス)を設置
平成13年(2001)	関屋キャンパスに大学・人間科学部を設置 樟蔭女子短期大学を大阪樟蔭女子大学短期大学部に名称変更
平成16年(2004)	大学院人間科学研究科を設置
平成23年(2011)	中学校に身体表現コースを開設 高等学校に児童教育コースと健康栄養コースを開設
平成27年(2015)	小阪キャンパスリニューアル工事完成 大学の3学部(学芸学部・児童学部・健康栄養学部)が小阪キャンパスへ集結
平成29年(2017)	創立100周年を迎える

創立者 森 平蔵について

樟蔭学園の礎を築いた森 平蔵は、明治8年に兵庫県神東郡(現・神崎郡市川町)に生まれました。16歳で大阪市内の木材商へ見習い奉公に入り、その優れた商才により僅か26歳で独立開業します。独立後は木材販売や植林業などで成功を収めると共に、木材を運搬する船舶に着目して汽船会社を設立。折からの海運ブームによって巨万の富を築くことになりました。



一方、大正初期の大阪では商家の子女を中心に教育に対する意識が高まりましたが、高等女学校の数が著しく不足しており、進学を希望する女子は幼い頃から厳しい受験戦争を強いられていました。このような現状を憂いた森 平蔵は、私財を投じて高等女学校を設立することを決意し、単なる知識を詰め込む学問ではなく、本当の意味での「高い知性」と「豊かな情操」を身に付ける「真の女子教育」の実践を目指したのです。

そして大正6年に設置の認可を受け、翌大正7年に樟蔭高等女学校が開校しました。この時、森 平蔵は42歳。16歳で見習い修業を始めた頃から26年、独立開業からは僅かに16年目での大事業でした。